

「日本帝国崩壊期『引揚げ』の比較研究」

ワークショップ趣旨

日本の敗戦を前後する時期の国際関係の変化にともない、大日本帝国を構成した地域社会あるいは日本人社会が多大な変容を迫られるなかで、そこで暮らしてきた人びとが、従来の関係をどのように維持、発展あるいは切断し、生き延びようとしたのか、また権力政治に規定されつつもこれをどのように変化させようとしたのかを、「引揚げ」という行為を通して比較史的に検討する。

▶日時:2012年3月30日(土)13時~17時30分

▶場所:法政大学市ヶ谷キャンパス:外濠校舎5階S505 (下記の地図をご参照ください)

<http://www.hosei.ac.jp/access/ichigaya.html>

司会:木村健二(下関市立大学)

1. 問題提起:今泉裕美子(法政大学)..... 13:00-13:10
2. 「パラオ諸島における『引揚げ』(1943~46年):今泉裕美子(法政大学)..... 13:10-13:40
3. 「沖縄出身者の『引揚げ』-1945~46年を中心に-」
:榮野川 敦(うるま市史編集室).....13:40-14:10
4. 「日系アメリカ人と国外退去(deportation)-強制立退き・収容政策再考-(1945~46年)」
:村川庸子(敬愛大学)..... 14:10-14:40
5. 「在日朝鮮人の『帰国』-1945~46年を中心に-」:宮本正明(立教大学).....14:40-15:10
6. 「日本残留中国人-戦後の札幌華僑社会を築いた人たち-」:曾士才(法政大学)....15:10-15:40

休憩:20分

コメント(16:00-16:30)

1. 蘭 信三氏(上智大学)10分
 2. 貴堂嘉之氏(一橋大学)10分
 3. 野入直美氏(琉球大学)10分
- 総合討論 60分(16:30-17:30)

